

コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～
その55 「感動」をもたらし人になろう



猪俣 恭子
中央大学文学部卒
卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。退職後は家業の印刷会社に従事。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年 Coaching Press 株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。
国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ
財生涯学習開発財団認定マスターコーチ
コーチエィCTPクラスコーチ
米国CCE,Inc.認定 GCDF-Japanキャリアカウンセラー

今年の夏休みは屋久島でゆっくり過ごしてきました。今日はそこから体験したことをお伝えしたいと思います。それは「人って『感動』すると、自らチャレンジするようになるし、そればかりでなくやり遂げる力さえも発揮する」ということです。

屋久島の人気トレッキングコースに白谷雲水峡というところがあります。苔の森を抜けて、木の根や石積みのある道を登りきっていきますと、辻峠なるところに至ります。そこから短い急な坂をさらに登っていくと、太鼓岩という見事な見晴スポットに着きます。ですが、その日、あたりは雲の中。真っ白な世界で何も見えません。しかも風が強いことといたら、手で抑えていないと帽子が飛ばされるくらいでした。しかしこの風の強さが幸いしました。一瞬、目の前の雲がさあ〜と流れていきました。すると、突然、目の前がぱっと開け、遠くの間々やはるか向こうの川の流れが姿を現したのです。それまで全く色のない白い世界に、緑色の世界が現れたのですから、これはもう感動ものです。「わあ〜！」歓声が一度にわきおこりました。

「さっきのメガネをかけていた男の子。もうちょっとここにいればよかったのにね。」近くにいた女性の会話が耳に入りました。ほお、他の人のことを考えてあげるなんて優しいんだな、と感心しました。太鼓岩なる場所はさほど広くなく、新たに登ってくる人たちに場所を譲るためにそうそうに戻ることにしました。急な下り坂を前に緊張が走ります。その時、もうひとつの下りルートから若い男性がよろめきながら上がってきました。息が随分分れています。黒縁のメガネをかけていて、高校生もしくは大学一年生くらいに見えました。

「どうしたんですか？」

「いやあ、こっちの道がすごく険しくて、これじゃ下りられないって途中であきらめたんです。違う道で下ったほうが良いと思って、また戻ってきました。」なるほど。そっちの道のほうがもっと急ならば、こっちで頑張って下っていき、と気合を入れ直しました。ようやく辻峠まで戻ってきて、ベンチで一休みしていること10分くらいだったのでしょうか。私たちが下りてきた方とは違うルートから、さっきの彼が下りてくるのではないですか。険しくてあきらめた、と言っていた

あの彼です。

「あれ?! こっちの道で下りてきたの?」

「ええ。あのあと、太鼓岩のほうから『きれい!』って声が聞こえて、もう一度上がってみたんです。」

「わー、そうだったの。見えた?」

「はい、すごく眺めがよくて…! すごくきれいだったです! それで、もう一度こっちの道にチャレンジしようと思ったんです。そしたら今度は下りられました!」

はあはあと息をきらしながらも、なんと生き生きとしていることでしょうか。足取りも力強くしっかきしています。私まで嬉しくなってきました。ああ、そうか。あの女性が話していた、メガネの男の子というのは、彼のことだったんだな。そのときようやく気づきました。それにしてもすごい! 初めは「自分にはだめだ」と思っていたのに、もう一度チャレンジしようと思えるようになって、そしてやり遂げてしまったのだから。もしかしたら、それが「感動」がもたらす力なのかもしれない、としみじみ感じ入りました。「じゃあ、失礼します。」成功体験を引っさげて、メガネの彼は力強く下り道を先に行きます。後ろ姿がみるみる小さくなり、見えなくなりました。もうふらついてなんかいません。最初に会った彼とは別人のようでした。

感動にはパワーがあります。今を変える力があります。もしかしたら、あなたの周りの部下や社員も、実は発揮していない力がまだまだあるのではないのでしょうか。本人さえ半信半疑になっている力が。相手のやる気と行動を引き出したいのなら、相手に感動をもたせることにも大きな意味があることと思います。

相手に感動をもたらすために、あなたがすることはなんですか?

今回の旅から、またひとつ大切なことを学びました。

※後日談

太鼓岩までは、上り道と下り道、それぞれ本当は一方通行。私たちは間違って上り道を下ってきてしまったのでした。途中、ガイドさんに教えてもらって知りました。(焦)



Coaching Press

コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162

<http://www.coaching-press.com/> (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)